

会 議 結 果 報 告

会 議 名	前橋市社会福祉審議会 令和7年度第2回地域福祉専門分科会
日 時	令和8年3月16日（月）午前10時00分～午前11時00分
場 所	前橋市役所 3階 31会議室
出 席 者	<p>【委員】 千原委員、石川委員、塩崎委員、山口委員、黒澤委員（上野委員、荻原委員、高橋委員、山田委員欠席）</p> <p>【事務局】 吉野福祉部長 社会福祉課 本間課長、中山副参事、須藤副主幹、太田副主幹</p>
傍 聴 人	なし
開催趣旨	次期地域福祉計画素案に係る諮問について、審議会から市へ答申する。
資 料	<p>資料1 第3次前橋市地域福祉計画のパブリックコメントの実施結果について</p> <p>資料2 第3次前橋市地域福祉計画について（答申）（写）</p> <p>資料3 第2次前橋市地域福祉計画 推進指標シート</p>
結 果	●審議会から市へ答申した。
審議会の 主な発言内容	<p>【部長あいさつ】 本市では、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを進めるうえで、地域福祉計画は大変重要な役割を担っている。委員からの提言をしっかりと受け止め、実効性のある計画として今後の市政運営に反映して行く。 引き続き、地域の力を生かした支え合いの仕組みづくりに全力で取り組んでまいりたい。</p> <p>【第3次前橋市地域福祉計画のパブリックコメントの実施結果について】 事務局 資料に基づき説明 石川委員 ・理念計画であり具体策が盛り込んでいないので、これを基に各部局が施策を検討し展開しているのだということを今後強くアピールしていったほうが良いのではないかと。この計画だけ見て、なにもしない、と市民から見られないようにしなければならない。</p> <p>【第3次前橋市地域福祉計画の答申について】 塩崎会長</p>

- ・第2次までの基本理念と同様、つながり・支え合いは大事だということで今回の理念にもこれを盛り込んだ。基本理念に添える説明文については具体的に答申の中で書かせていただいた。
- ・計画本編以外に、概要版等も作成される。デザイン面で共通化し、一連のものであることがわかるようにという意見を答申に加えた。
- ・今回の計画は、市民意見を反映する様々な取組をしてきた。
- ・市民意見はもちろん、庁内の大変多くの課を巻き込んで策定した計画。
- ・答申では、今後の資料作成の中でも、積み重ねてきた取組を市民に伝えていくべきであるとした。

【第2次前橋市地域福祉計画事業報告】

事務局

資料に基づき説明

千原会長

- ・社明パレードの参加者数は、策定時比較でマイナスとなっているが、参加者を限定したからやむを得ない。このパレードでどのような効果があったかが大事。
- ・量的指標は簡単だが、質的指標は頭を捻る。重点、狙いがどこにあるかから考えないといけない。

事務局

・計画では、5年後・20年後のあるべき姿を示しているので、市民アンケートやインタビューなど参考にしながら市民の考えがどう変わってきたか捉えていきたい。

塩崎会長

・取組の実績値だけでは評価できない。大変だと思うし、予算の都合もあるだろうが、ピックアップした市民のインタビューでも十分かとは思っているので、市民がどう感じているかと言うのは取り入れてほしい。

黒澤委員

- ・高齢分野で言うと2025年問題や2040年問題をどう乗り切るのがポイント。
- ・介護需要も増えていく。健康寿命延伸によって、自分たちが身近なところで行えることをやっていく、増やしていくというので、究極的な目標としてSDGsにもつながる。

山口委員

・社協として活動するにあたって、数だけではなく、持続可能かどうかという部分などに重きを置くこともある。数字だけでなく、状況が文字として加われば質的な部分も伝わるかと思う。

塩崎会長

- ・第三次の計画も、各委員が引き続き関心をもって見てほしい。

【各委員からのコメント】

黒澤委員

・質問だが、計画では主体として企業の参画をどう進めていくのか確認したい。企業は数が多いので、この役割を果たしていければスムーズに行く。企業もメリットがないと動かないと思うのだが、どう考えているか。

事務局

・地域での雇用やCSRとしての活動が期待される。企業と地域との顔の見える関係ができて企業に対する信頼も生まれる。

黒澤委員

・玉村町では、民間企業が小学校で障害者の未来のケアについて講義を行った例がある。そこでは小学生からいろいろな意見が出て、良い取り組みと感じた。
・企業のメリットとしては、取組を市が紹介するといった方法も考えられる。

山口委員

・本市でも2年ほど前から企業に対して働きかけて地域や学校の中に入っていた
だ取組を始めたが、それを広く知らせるということではなかった。発信をして、
みんなでいい町にしていこうという取組、提案をしていきたい。

事務局

・市とカインズの包括連携協定に基づく取組として、月1・2回、「くみまちパンマルシェ」を開催している。パン屋としては、カインズに売ってもらうことで販売員のコストを省ける。カインズとしては呼び水になって売り上げにつながる。
・今までの福祉の概念では、儲けに対して肯定的でなかったが、今後は変わっていくし変えていかなければならないと思っている。

山口委員

・地域福祉計画策定の取組に身近に触れたことで、地域福祉活動計画のほうもすっかり市民の声を聴きながら策定を進められた。
・庁内関係課が協力して作業したことで、同じ方向性が持てたのはとても良かった。

石川委員

・単純に数字だけでは、上がるのがいいのかどうか、いい上がり方なのかどうか、ということがある。うまく市民に伝えられる評価になればと思う。
・私自身、委員として議論に参加して前橋のために何かできた、と感じられた。市民にもいろいろな場面で参加することで、自分も前橋市民なんだと感じられ、よりよい地域にしたいと考えるようになると思う。

千原委員

・前任の鳥島委員からも、策定の過程がとても充実していたということを聞いていた。また、各委員の話を聞いて、これからを見ていく計画ができたのだと実感した。
・民生委員は、普段の暮らしを幸せに、と掲げて活動している。理念どおりつながって支え合って分担することで、みんなが幸せになれると思っている。

塩崎会長

・自分ごととして捉える、というのが各委員の中にもあったのがうれしい。
・理念計画を出したことを、どれだけ市民に伝えられるか。そして、理念どおりに進んでるかどうかを、市民が自分ごととして考えられるような投げかけや機会を作れるとよい。令和8年度の課題と思っている。

【その他】

事務局

地域福祉に関する小冊子や「わかりやすい版」等を作成中であることを案内

--	--